

第18回

あいち境界シンポジウム 2016 報告

平成28年2月6日(土)13時30分からウインクあいち2階大ホールにおいて、あいち境界シンポジウムが行われました。今回のシンポジウムは、愛知会や他の単位会、連合会が開催してきたシンポジウムとは一風変わった内容のものでした。事前申し込みにおいてインターネットやFAXでの申し込み受付を行い、申込者は320名を超えていました。当日、来場された方は、278名でその内49名が県内外からの土地家屋調査士でした。

開演冒頭の開会挨拶で、いきなりドラゴンズのタオルを首に掛け、作業着で登場した茶谷会長。そして、その会長に「その服装は何ですかあ？(驚)」と声を掛ける森川あやこさんと政近準子さん。ちょっとした三人の掛け合いでシンポジウムが始まりました。



第一部は、森川あやこさんによる「みんながあなたのファンに～ファンの作れる境界線」をテーマとした講演が行われました。会場全体を巻き込んだ講演に、来場者の方も一緒に参加されて楽しんでいる様子で、舞台袖で待機していた愛知会の理事の方々も一緒に参加しているようでした。



第二部は、政近準子さんによる「服装が果たす役割、服の力～実践！出来る男のスーツスタイル」をテーマとした講演が行われました。そこでは、政近さん、いや一般市民が思っているであろう土地家屋調査士についての正直でストレートな感想がいくつか出てきました。調査士の来場者は少なかったですが、来場された調査士の方々には、一体、どんな気持ちで聴かれていたのでしょうか。また、ファッションについての色々な話をされ、来場者には、目から鱗になるような内容も沢山盛り込まれていたように感じました。

政近さんの講演の後は、落語へと続きました。本来、落語とは一人で行うものですが、二人で落語に挑戦してもらおうという落語家の方もこれまでの境界線の枠を突破している様子が伺えました。多くの来場者の方からの笑いが聞こえてきました。



そして、最後はパネルディスカッション。愛知会顧問の田中教授にコーディネータをお願いし、森川さんや政近さんを初めとして、愛知会の富士田顧問、今回は宅地建物取引士として登壇された伊藤直樹会員、そして何故か2人の僧侶を交えてのパネルディス



カッションとなりました。ここでは、色々な専門家の方から色々な境界線、つまりは対比的な内容が出てきました。最後にコーディネータの田中教授から「境界線は分けている線でもあるが、違うものが接している

ところでもある」とまとめの言葉でパネルディスカッションが終わりました。

最後に新しいスーツへと装いがガラッと変わった茶谷会長が登壇し、閉会の挨拶で全てのプログラムが終了しました。



今回は来場者の方にアンケートの協力をしてもらいましたが、多くの方から来て良かったという内容の回答をいただきました。また、土地家屋調査士を初めて知ったという方もいらっしゃったようです。

今回のシンポジウムは、これまでにない大きなチャレンジだったと思います。これをひとつのキッカケとして、今後も前に進んで行きたいと思います。

あいち境界シンポジウム実行委員長 近藤正行